

Viva Kango

Japanese Red Cross Hokkaido College of Nursing

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society



RCHOKKAIDO

学校法人 日本赤十字学園
日本赤十字北海道看護大学
編集・発行／広報委員会

〒090-0011 北海道北見市曙町 664 番地 1 TEL 0157 (66) 3311 FAX : 0157 (61) 3125
HP : <https://www.rchokkaido-cn.ac.jp/>



RCH Viva Kango 第22回 日本赤十字 北海道看護大学祭を開催

□ コロナ禍の影響で2年間中止となっておりましたが、令和4年7月2日(土)、3日(日)、「Heart Beat」をテーマとして大学祭が開催されました。

大学祭実行委員長からは「未だコロナ禍からの解放が見えない中ではありますが、皆さんに楽しいひと時をご提供出来れば、と考えています。準備期間が短く、前任者もいない中、自分たちなりに試行錯誤したので至らないところがあるかもしれませんが、多くの方々に支えられ無事となりました。」という、困難な状況での活動を語ってくれました。

サークル活動も制限されているため出店やイベントも限られる中、従来のヘルスチェック、看護体験、献血は先生方とボランティア学生のおかげで開催できました。また、外部からキッチンカーをお呼びしたり、子ども縁日の拡大、小中学生対象のミニオープンキャンパスなど、普段とは異なる形、小規模な大学祭になりましたが、2日間で延べ700名を超える皆様にご参加いただきました。なお、後夜祭は花火のみとなりましたが、例年以上に多くの方々が見に来られていたようです。ありがとうございました。

なお、新型コロナウイルス感染症防止対策として、不織布マスクをつけていただいた上で、入場の際は受付

にて、検温、チェックシートの記載などにご協力いただきました。コロナ感染症の収束の目途はたっておりませんが、来年も開催できることを祈っております。

記事をもっと+

第22回大学祭の様子を動画でもご覧いただけます。QRコードよりアクセスしてみてください。



Column

本学は令和4年度前期も対面講義ならびに臨地実習とも高い実施率を実現できました。

オミクロン株の流行に伴う第7波の急激な感染拡大の下、対面講義と臨地実習を実施することができたのは、学生の皆さまが感染防止対策を徹底して頂けたことと共に、多くの実習受け入れ施設の皆さまのご尽力のおかげです。心より感謝申し上げます。

対面講義・病院実習
の実施率

対面講義の実施率	98.6%
病院実習の実施率	89.0%

新型コロナウイルス

職域追加接種3回目を完了

令 和4年3月から本学で実施して
おりました新型コロナウイルスワ

クチンの職域追加接種（3回目接種）が6月24日に完了しました。接種を希望する本学学生、教職員とその家族、北見市民の皆さまの合計約1400人の方々への追加接種となりました。

昨年夏季に行われていた本学職域接種1、2回目の経験より、接種会場の運営方法を確立することができましたので、接種を安全に、かつスムーズに進めることができました。予約をいただいた皆さまは、ほとん



ど待ち時間なく接種を終えられました。

第7波がピークアウトしつつありますが、未だ予断を許さない状況です。引き続き感染防止対策へのご協力をお願いいたします。

1. 本学の教員が新型コロナウイルスをバイアルからシリンジへ吸い上げる。細心の注意を払い事故の無いよう準備をしました。
2. 職域接種の会場となった本学の基礎・成人看護実習室。密にならないよう動線を確認し受付から接種までをスムーズに進行。
3. 本学の教員（看護師）が接種を行う。プライバシーを確保し被接種者の不安を緩和しながら実施。
4. OSCEの様子。教員から学生へ細やかな指導を行います。
5. 自己の課題に気づけるよう、学生ひとり1人に応じた指導を行います。

2年生「看護の統合と実践I (OSCE)」が終了

この科目は、2年生後期で行う「基礎看護学実習Ⅲ」に参加するために、必ず単位を取得する必要がある科目となっています。OSCE（オスキー）とは客観的臨床技能試験（OSCE：Objective Structured Clinical Examination）であり、基礎看護教育だけでなく様々な医療者の養成において用いられる試験方法です。学生は、試験時間内に試験課題に取り組みその様子を教員が客観的に評価を行います。

今年度の学生は、「肺炎で入院中の患者さんの病状を把握する」という課題に取り組みました。この試験では、正確な看護技術を実施しながら、自分の目的達成のためだけに行動するのではなく、目の前の模擬患者さんに応じることができかが重要となります。この科目を通して学生が、病いのある人を慮り行動することができるよう教職員一丸となつて取り組んでおります。特に、試験前の演習では、学生に細やかな指導ができるよう担当教員を配置し、学生自身が自己の課題に気づく機会となるよう全ての看護学領域の教員がサポートしています。

この4カ月間、2年生はOSCEに向けそれぞれが努力し大きく成長しています。是非、「OSCE（オスキー）どうだった？」と話題にしてみたいかがでしょうか。



領域別実習が開始

現 2年生までのカリキュラムでは3年生の前年から始まる領域別実習、今年度も5月の連休明けから開始しました。

実習がスタートする前の4月には「看護の統合と実践II(スタートアップ演習)」として各領域からのオリエンテーションがあり、チームビルディングやカンファレンス運営等の講義や演習もあります。さらに授業の中で領域別実習をすべて終えた4年生から実習についてのアドバイスが聞けるのも貴重な機会のように、3年生は授業が終了した後も熱心に先輩に質問をしておりました。

領域別実習では2年生までに培ってきた看護の技術や知識を最大限に生かす必要があります、記録も時には睡眠時間を削って頑張らなくてはならず学生の皆様にとっては試験の場かもしれません。しかし、実際に患者さんを受け持ち、アセスメントをして自分が立案したケア計画を実践することで患者さんに「ありがとう。」と言われる体験はこれから看護の道を志す皆様にとって一生忘れられない宝物となり、励みとなることでしょう。さらに、このコロナ禍で臨地実習ができていないことは皆様を育てたいと協力してくださっている患者さんや病院関係者の皆様のおかげです。そして、家族や友人は心身ともにサポートしてくれるかけがえのない存在ですよ。皆様を取り巻く周囲の

人たちへの感謝の気持ちも大切に後期の実習も頑張ってくださいね。

1・2年生の皆さん、実習は学内の講義や演習で学んできた看護を發揮する場です。実習へ出てから「もつと形態機能をきちんと勉強しておけばよかった。」「寝ないで真面目に授業を聞いておくべきだった。」と後悔しないように、今できることを一杯やりましょう。1・2年生からの学習の積み重ねが必ず実習の場生かされるはずですよ。

1・2年生前期 学内での演習が始まる

RCH Viva Kango

1 年生前期の学内演習科目である基礎看護技術Ⅰは入学して初めて、身につけていく日常生活援助に関する看護技術の演習です。臨床現場と同様に感染予防に十分配慮しながら、前期はベッドメイキング、寝衣・リネン交換、体位変換・車椅子移動、清拭、食事介助、口腔ケア、排泄介助等を行いました。この科目は、先に講義を行い、そ



1

の後演習を実施します。実際、技術を行ってみると、見たり、聴いたりしていた通りには身体が動きません。「アレ?!ソウか!!」と、学び、考え工夫し、繰り返しながら技術を習得します。また、患者体験をすることで、相手の立場に立つことを学び、援助を受ける方への配慮や気遣いを学び始めました。1年生の皆さん、これからも一緒に頑張りましょう。

一方、2年生前期は、診療補助に関する技術演習です。特に前期に行う基礎看護技術Ⅲでは、皮下注射・筋肉内注射、採血、点滴、輸液・シリンジポンプの取り扱いといった注射に関する基本的な知識と技術を中心に習得します。いずれも、はじめ使う物品ばかりで緊張します。診療補助の技術では、安全、正確さとあわせて、患者さんへの配慮もかせませません。装着型シミュレーターを使いながらも、「指先にしびれや痛みはないですか?」等、患者さんへの声掛けも繰り返し行います。また、2年生は初めて病院で、初めて患者さんを受け持ち、実習を行うこともできました。2年生の皆さん、これからも確実に成長していきますよ。



2

1. 車椅子移動の演習(基礎・成人看護実習室)。学生は看護師役と患者役の両方を体験することにより、援助を受ける方への配慮や気遣いを学びます。 2. 注射器の取り扱いについて学びます。バイアルからシリンジへ薬剤を吸い上げる方法や、一連の流れ、注意事項などを学んでいきます。 3. 全身清拭の演習は、タオルをお湯で濡らして、しっかり絞ることから始まります。 4. 患者さんが気持ちよく療養するためには、ベッドメイキングも欠かせません。シーツの掛け方や手順をひとつずつ確認しながら学びます。 5. 筋注の方法について学びます。教材を使用しながら注射の手順と方法を学んでいきます。



5



4



3

オープンキャンパス開催



7月24日(日)、本年度第1回目のオープンキャンパスが開催されました。オホーツク地域を中心に道内外(道内172名、道外3名)から高校生(113名)、保護者(61名)、社会人(1名)、総勢175名の参加者がありました。

午前10時に受付が始まると三々五々参加者が来場し、札幌、旭川、釧路からの送迎バスを利用した参加者がそこへ加わり、午後1時に講堂で河口てる子学長の開会の挨拶をもってオープンキャンパスがスタートしました。大学概要、学生生活、入試概要の一般的説明を受けたのち、参加者各自がさらに知りたい、得たい情報を求めて個別の会場へと足を運びました。奨学金についての情報、講義、実習、クラブ活動の一端、学校生活についての学生の生の声、北見のまちの様子といったことなどが双方向的なやり取りのなかで提供されました。

学食が用意した昼食を合間にとりながら、得たい情報を求めて熱心に校内を移動する参加者の姿がうかがわれました。

午後4時に送迎バスを見送り、第1回目のオープンキャンパスが無事終了しました。参加者の皆様に満足していただけたオープンキャンパスとなったことを願うとともに、オープンキャンパスの開催にご尽力いただいた学生、教職員の皆様に感謝を申し上げます。

1. 講堂では、オープンキャンパスの全体説明会や模擬授業なども行われ、感染対策を徹底したなか、多くの方にご参加いただきました。 2. 基礎・成人看護実習室では、看護演習体験が実施され血糖値測定などを体験しました。 3. 看護演習体験では、さまざまな体験ができるよう工夫を凝らし実施しました。なかなか体験することのできない心音を聴いたり、看護についての質問をしたりする参加者も多く、熱心に耳を傾けていました。

学生相談室

今野睦子さんより



んには。学生相談室担当の今野睦子です。毎週木曜日12時～18時と予約制ですが月1回土曜日10時～16時に保健室で開催しています。

園内初の新型コロナウイルス発症から3年が経過し貴方の日常は変わりましたか？ 私の場合は大勢集まるころへ出かけるのは一寸心配、親しい人達に会っても思い切り話せない、マスクで相手の顔が思い出せないなどなど。

経済協力開発機構の調査ではコロナ禍でうつ病が倍増したという結果が発表(読売新聞オンライン2021年6月19日掲載)されていました。多くの人が自分の気持ちを受け止めてくれる人や場の環境が減って、寂しさを募らせてしまうのかも知れません。

一方で、すっかり人々の生活に溶け込んだSNS。機器音痴の私でも言葉自体は以前より格段と耳にする機会が増えました。便利で興味をそそる内容が自分1人の世界を広げます。徐々に時間を忘れて気付けば朝になっていたと言う事も！ 何事も嵌りすぎると何処かにしわ寄せがやってきます。狭い世界の中で孤立感が深くなっていることに気がつかないこともあります。

何となくスッキリしない、そんな時は相談室を訪れて心のデトックス効果を実感してみませんか。

学生相談室

澤田和美さんより



んには。学生相談を担当させていただきます。普段は北見赤十字病院で公認心理師(臨床心理士)として勤務しています。月2回、夜18時～20時に保健室にて学生相談室を開設しています。

学生相談には色々な悩みを抱えた方がいらつしゃいます。友人や先生、彼氏・彼女との関係、勉強や実習のこと、自分自身の悩みや家族との関係など悩みはそれぞれで、そこに大小はありません。悩み事がある時、本当に問題が起こっていることでもあります。実はものごとをありのままに見えないがために辛くなったり、不安を感じている場合もあります。例えば「失敗してはダメだ」「友達とは仲良くしなければいけない」と厳しくして追い詰めたり、「これは私のせいだ」と決めつけや思い込みが強くなったり。こういった考え方が少し変わると楽になれること、もたくさんあります。ただ自分では整理できない、気づけないこともあるので、そんな時は是非学生相談室にお越しください。

一緒に考えるお手伝いをさせていただきます。お待ちしております。

